石西 自然再生 礁湖

石西礁湖自然再生 ニュースレター 2006.12

3

豊かな海と生きていく

第3回　石西礁湖自然再生協議会が開催されました

自然再生推進法に基づく「石西礁湖自然再生協議会」が平成18年2月に設置され、石西礁湖の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻すための取り組みが進められています。今回のニュースレターでは、第3回協議会の様子と、併せて行われた講演会、サンゴ移植地見学会の様子をご紹介します。

▲自然再生協議会開催の様子

石西礁湖（せきせいしょうこ）の自然再生を目指す「石西礁湖自然再生協議会」の第3回協議会が、平成18年11月17日（金）に石垣市で開催されました。

今回の協議会では、協議会委員の有志からなる「全体構想作成作業グループ」で検討が進められてきた「自然再生全体構想（案）」の説明が行われました。

また、これから石西礁湖の自然再生を進めていくにあたって取り組むべき活動や各委員の役割について、活発な議論が行われました。

第3回協議会の終了後には、協議会委員に加え一般の方々もお招きし、講演会「石西礁湖はすごかった ～考えよう、私たちの海のこと～」を開催しました。

講演会では2名の講師をお迎えして、30年以上昔の写真をスクリーンに映しながら、石西礁湖の昔の様子や現状についてのお話を伺いました。

翌18日（土）には「サンゴ移植地見学会」を開催し、実際に船に乗って、サンゴの移植事業が進められている新城（あらぐすく）島や黒島周辺海域の見学を行いました。

▲講演会開催の様子

「石西礁湖自然再生全体構想」の作成に向けて

今後、石西礁湖の自然再生を進めていく上での基礎となる「石西礁湖自然再生全体構想（案）」について、これまで協議会委員の有志による「全体構想作成作業グループ」を計4回開催し、検討を行ってきました。

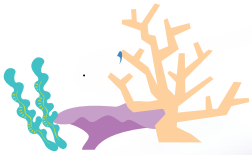
今回の協議会では、その「石西礁湖自然再生全体構想（案）」について議論がなされ、「石西礁湖自然再生の対象となる区域」と「石西礁湖自然再生の目標」について委員の了承が得られました。

石西礁湖自然再生の目標

長期目標 人と自然との健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

短期目標 サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。

自然再生の対象となる区域



①重要な区域

●石西礁湖

西表国立公園の公園区域を参考に、東西約30km、南北約20kmで囲まれる礁湖内の海域（加屋真島、新城島、西表島東岸及び石垣島南東のサクラグチを含む海域）とする。（右図の赤い線で囲まれた地域）

②関連する区域

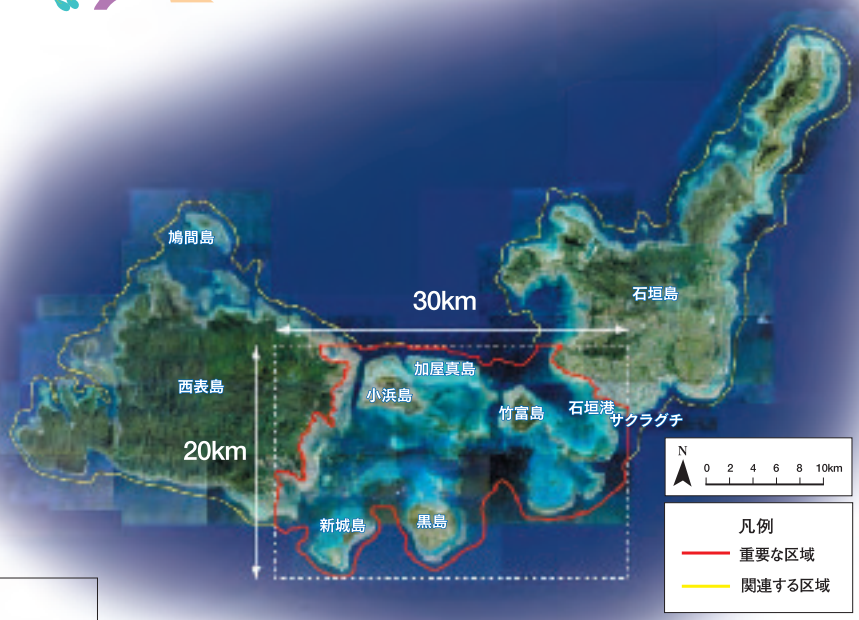
●石垣島・西表島周辺海域（「重要な区域」と重複しない）

石垣島及び西表島周辺海域のうち、概ね50mの等深線に囲まれる範囲を基本とし、西表島や石垣島の周辺に発達した湾や裾礁（きょしょう）などを含むように設定する。（右図の黄色い線で囲まれた地域）

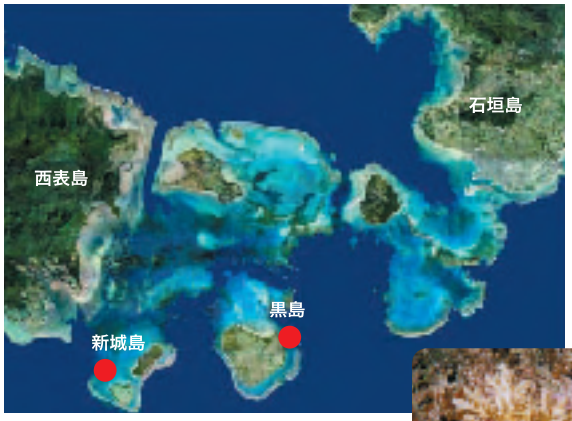
自然再生に関連する活動を行う区域

●自然再生対象区域及びその周辺区域

上記①及び②に囲まれる範囲の陸域とする。



サンゴ移植地見学会

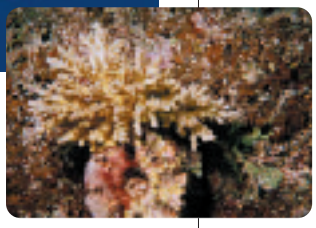
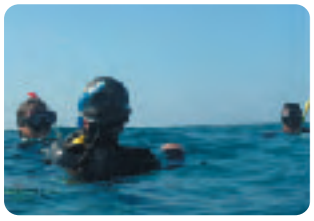


「実際に海に出て、石西礁湖を見て欲しい」ということで、石西礁湖でサンゴの再生事業が進められている新城島と黒島の周辺海域で見学会を行いました。当日は天候にも恵まれ、23名の参加者が船に乗って海へと出発しました。

最初に着いた新城島の沖合では、「着床具」と呼ばれるコマのような形をした器具を設置してサンゴを幼生から育てている場所で、スノーケリングで潜って観察したり、船上で水中カメラのライブ映像を使って観察しました。

次に黒島の沖合に移動し、着床具を使って育てた稚サンゴを移植した現場を見学しました。移植したサンゴの中には、大きな物で5cm以上に育っているものも見られました。

また、海の汚れを表す指標であるCOD（化学的酸素要求量）の簡易調査も行い、石垣港内、石西礁湖内ともにきれいな水（2mg/L以下）であることが分かりました。

左：着床具についたサンゴ
中：スノーケリングで観察
右：最後に記念撮影

石西礁湖はいま

シリーズ❸

サンゴの白化（はっか）現象

皆さんは、サンゴの白化現象という言葉を聞いたことがあるでしょうか？
左下の写真をご覧ください。この写真の左下に写っているサンゴは正常な状態のサンゴですが、右上のサンゴは真っ白になっているのが分かります。これが、白化したサンゴです。

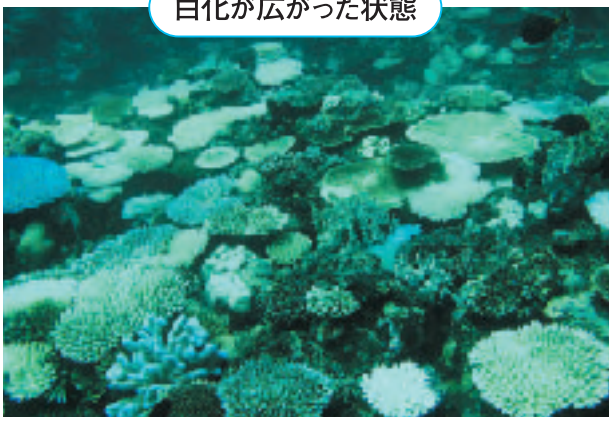
この白化現象が大規模になると、あたり一面真っ白な世界になってしまいます。それが右下の写真です。一見きれいな風景のように見えるかもしれませんが、サンゴにとっては危機的な状況なのです。

では、白化したサンゴの中で一体何が起きているのでしょう。実は、サンゴの色はサンゴそのものの色ではなく、サンゴの体の中に住んでいる「褐虫藻（かっちゅうそう）」という藻類の色なのです。

この褐虫藻が抜け出てサンゴ群体が白っぽく変化することを「白化現象」と言います。サンゴは褐虫藻から栄養をもらうことにより生きているため、褐虫藻が抜けた状態が続くと、サンゴは死んでしまいます。

白化は、高水温、低水温、強い紫外線の照射、低塩分、バクテリアによる感染など、サンゴに対する様々なストレスが引き金になって発生すると言われています。

石西礁湖では、1998年、2001年、2003年の夏に高水温が続いたため、大規模な白化現象が起こっており、サンゴ群集に対する大きな脅威となっています。

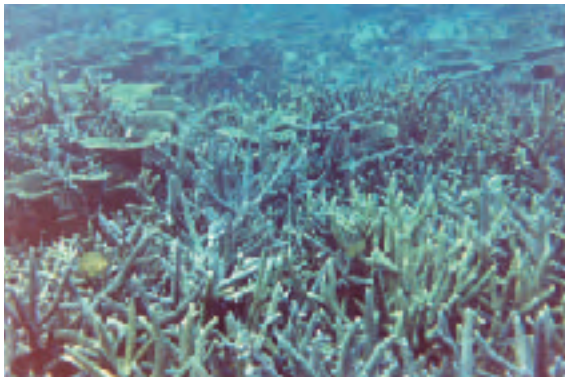


Gallery

石西礁湖ギャラリー

忘れられない海

今回の石西礁湖ギャラリーでは、講演会演者の井田先生からご提供いただいた1970年代の石西礁湖の様子をご紹介します。
「サンゴの生えていない場所を見つける方が難しかった」というくらいサンゴがびっしりと海底を覆っていて、
「サンゴのお花畑が咲き誇っていた」という当時の様子がよく分かります。



▲加屋真島南

▲仲間川北東

※このコーナーに掲載する写真を募集しています。簡単なコメントと写真を裏面のお問い合わせ先までお送りください。皆さんのすばらしい写真をお待ちしております。

講演会

「石西礁湖はすごかった ～考えよう、私たちの海のこと～」

「1972年の国立公園指定当時のサンゴ礁の姿を取り戻す」ことが石西礁湖自然再生の目標として掲げられています。しかし、当時の状況が分かる写真などの資料は必ずしも多くありません。今回、協議会では次の2名の方を講師としてお迎えして、石西礁湖のかつての姿を様々な方々と共有するための講演会を開催しました。

当日は、大盛武・竹富町長をはじめ、協議会委員以外の一般の方々も数多く参加され、盛況のうちに終了しました。

井田 齊（ひとし） 氏

●プレック研究所
生態研究センター長

1970年代の石西礁湖

井田さんは、石西礁湖を国立公園に指定するために行われた調査の際に、海洋生物の専門家として参加された経験をお持ちです。ご講演では、当時の貴重なサンゴの写真等をスクリーンに写しながら、石西礁湖が「すごかった」時代の様子をお話ししていただきました。

井田さんは、1970年10月に石西礁湖内の50地点について調査を行い、海中の景観を5つのタイプに分類されました。

当時の黒島の北の海などはサンゴで海底が全て覆われており、裸地を探す方が大変だったほどサンゴが生息していたとのことでした。その時の調査結果や、環境省がその後調べた結果を見てみると10年単位でサンゴの被度（サンゴが地面を覆っている割合）は簡単に変わっていることから、サンゴの再生能力を邪魔しなければ、昔のような景観になることも不可能ではないとのことでした。

また、すばらしい自然を子供達に見せるということは非常に大切なことであり、環境教育の素材というのは、私たちの身の回りにたくさんあるにもかかわらず、「自分たちの財産（自然環境）を残すことは大切である」ということを親が子供に伝達する機会が少ないことを危惧されていました。

海人から見た石西礁湖

池田さんは、海人（うみんちゅ：漁師）として、昭和38年頃から石垣島の水産業に長年携わっておられます。

ご講演では、過去にオニヒトデが大発生したときの駆除の様子やモズク・シャコガイの養殖の話、サメとの闘いなど、多岐にわたる内容について語っていただきました。

1980年代始めに、石垣島をはじめとする八重山群島でサンゴが食い荒らされたときには、オニヒトデ退治のために1日に20隻もの船団を出したそうで、駆除したオニヒトデはこれ以上船に乗せられないと言うほど船いっぱいになったそうです。

また、生きたサンゴが多いほど生き物にとって良いというわけではなく、生きたサンゴと死んだサンゴのバランスが重要で、生きたサンゴと死んだサンゴをうまく利用して生き物は住み分けを行っているということでした。

池田 元（はじめ） 氏

●沖縄県指導漁業士

協議会、講演会の資料や議事録は、ホームページでご覧になれます（http://shizensaisei.com/）

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省　那覇自然環境事務所　　内閣府　沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

【住　所】〒907-0011　沖縄県石垣市八島町2ー27　環境省石垣自然保護官事務所内
【電　話】0980-82-4768　【ＦＡＸ】0980-82-0279
【E-mail】okironc@coremoc.go.jp　【自然再生ホームページ】http://shizensaisei.com/